

1. 自校の課題および特色ある教育活動における自己評価

大項目	評価項目	評価の観点	評価	改善案
読書活動	読書活動を通して、読書をする力や態度を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校読書タイム</li> <li>・本を活用した授業</li> <li>・保護者ボランティアによる読み聞かせ</li> <li>・校内研究での取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究とリンクした諸活動や、全校読書タイム・熱心で親切な保護者ボランティアにより取り組み等により、児童の読書に対する関心が高まり、一人あたりの本を読む冊数は、ここ数年向上している。本好きな児童が多く、高学年でも本の読み聞かせを楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、「読書活動を通して、確かな目と豊かな心を育てる」活動に、3年間取り組んできた。ここで得られた成果を、資料としてまとめ、次年度に引き継いでいく。</li> </ul>
学校や地域の自然活用	学校や地域の自然を活用した授業により、豊かな心を育てている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の芝生広場、ビオトープのある裏庭を活用した授業</li> <li>・地域の自然環境(多摩川など)や、人材を生かした教育活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間などに、地域の人材や自然環境を生かした活動が行われ(中学年の多摩川学習など)、児童が学習に意欲的に取り組んだ。</li> <li>・学校の花壇の花の世話は、保護者ボランティアの協力を得て行っているため、きれいに整備されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外学習では、児童の安全確保のために、保護者の協力を得て行った。次年度以降も、左記の学習環境を、児童に提供できるように、地域や保護者との連携を図っていく。</li> </ul>

## 2. 指導室事業における自己評価結果の概要と改善策

大項目	評価項目	評価の観点の例	評価	改善案
学力向上	大田区学習効果測定の結果を分析し、全教員で授業改善に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善推進プランの策定</li> <li>・改善プランに基づく授業と振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果と、児童の実態をもとに、授業改善プランを策定し、それをもとに、一人一人が授業改善に取り組み、一定の成果が得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習効果測定の結果と児童の実態をもとにした、授業改善プランの策定と実施というパターンが定着してきた。次年度以降もこの取り組みを続けたい。</li> </ul>
	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る授業を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業における基礎的・基本的な学習内容の徹底</li> <li>・休み時間や放課後の個別指導</li> <li>・学生ボランティアなどによる支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい授業を心がけるとともに、個別指導が必要な児童に対して、放課後などに適宜個別指導をすることで、基礎的な学習内容の定着が図れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導などは効果的であったが、その時間の確保が難しかった。1クラスの人数が多い学級については、人員の配置や、効率的な時間の活用が必要である。</li> </ul>
	国語力の向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校読書タイムの実施</li> <li>・学校図書館の整備</li> <li>・大田区小学校漢字検定の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、特に国語の読書活動に力を入れて実践を行った。これが、児童の読書に対する意欲や量の向上などの成果に結びついている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動に対する取り組みについては、一定の成果が見られたので、他の分野についても、向上を図りたい。</li> </ul>
	習熟度別少人数指導や学習指導講師などを生かし、個に応じた指導の充実を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元や学習指導過程に応じた、グループ編成</li> <li>・授業展開の工夫</li> <li>・教材や教具、指導計画などの蓄積と活用</li> <li>・少人数加配講師(区)の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導担当者として学級担任が、連絡を密に取ることによって、児童や学級の実態に応じた、柔軟な形での少人数指導が展開でき、児童の基礎学力や意欲の向上が図れた。また、区の少人数加配講師は、特に単学級児童への個別指導に効果があった。</li> <li>・学年、単元別に教材教具が整備されており、今までの研究や実践の成果が蓄積されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降も、左記のような本校の特色を生かした、少人数指導を実施していく。</li> <li>・区の少人数加配講師による支援体制の確保は、次年度以降も是非続けたい。</li> </ul>
	各教科・総合的な学習の時間などを通して、自ら課題を持ち、それを追求・解決する問題解決型学習の充実が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の計画をもとにした総合的な学習の時間の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェビング法の活用などにより、本校の総合的な学習の時間の指導計画に沿いながらも、児童が自ら課題を持って、それを追求する活動ができるような実践を行った。自分で課題を追求していくことが苦手な児童に、興味関心を持たせるような指導が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が課題設定する際の、個別支援が十分にできないところがあった。次年度は、この点について改善したい。</li> </ul>

生活指導	道徳授業地区公開講座等、道徳の時間を中心に、児童・生徒の道徳性をはぐくむ教育を展開している。	・道徳授業地区公開講座による、全学級授業公開 ・道徳の時間の確保	・道徳の時間を中心に、児童の道徳性を育てている。道徳授業地区公開講座では、生命尊重週間とも関連させながら、全学級授業公開を行い、保護者からの評価はおおむね好評だった。	・道徳の時間を引き続き確保し、道徳の時間を中心に、児童の道徳性を育てていく。
	全教育活動を通して、児童・生徒の規範意識向上に向けた取り組みを行っている	・生活指導部を中心とした、規範意識向上に対する取り組み	・毎週の生活指導朝会で、週の振り返りを全職員で行い、「その時に必要な指導」が児童に徹底するようにした。その結果、休み時間の遊び方、教室移動の仕方などの課題を、全体で共有し、改善を図ることができた。	・必要なことについては、今年度のように、全職員で、繰り返し児童に指導を徹底していくことが必要である。
	いじめ問題の未然防止および早期発見・解決に向けて努力している	・生活指導部、教育相談部を中心とした、情報収集と解決への取り組み ・スクールカウンセラーとの連携	・児童・保護者からの情報をもとに、必要に応じたサイズのケース会議を行い、管理職とも連携しながら、早期対処に努めた。	・普段からの情報収集により、早期にケースの見立てと指導方針の確立を行い、それに沿って関係職員が連携することが大切である。次年度もこのような方針で臨みたい。
	不登校児童・生徒の解消に向けて全校で対応している	・生活指導部、教育相談部を中心とした、情報収集と解決への取り組み ・スクールカウンセラーとの連携	・前年度担任からの引き継ぎ・調整の場を、教育相談部で設定し、早期対処ができた。	・普段からの情報収集により、早期にケースの見立てと指導方針の確立を行い、それに沿って関係職員が連携することが大切である。次年度もこのような方針で臨みたい。
	問題行動の未然防止・早期発見・解決に向けて努力している。	・生活指導部、教育相談部を中心とした、情報収集と解決への取り組み ・スクールカウンセラーとの連携	・スクールカウンセラーのアドバイスを受け、ケースの見立てと支援方針を確立し、全職員でそれにそった支援ができた。	・普段からの情報収集により、早期にケースの見立てと指導方針の確立を行い、それに沿って関係職員が連携することが大切である。次年度もこのような方針で臨みたい。
	スクールカウンセラーを生かした相談体制及び児童・生徒への支援体制を確立している	・教育相談部による相談体制の確立と周知 ・スムーズな連携のための情報交換	・昼休みなどを利用して、スクールカウンセラーとの情報交換を行うことで、ケースに柔軟に対処できるよう心がけた。 ・スクールカウンセラーによる担任へのコンサルテーションや、児童・保護者への面接が行えた。	・スムーズな連携のためには、こまめな情報交換が、鍵となる。この情報交換のための時間設定が難しかったが、今年度のように、短い時間を使って、こまめに情報交換を繰り返すことで対処したい。

特別支援教育	校内委員会において、特別に支援を必要とする児童・生徒の状況に関する共通理解及び具体的な支援策を構築している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを語る会での職員による共通理解</li> <li>・校内委員会の開催</li> <li>・特別支援教育コーディネーターによる校内体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の子どもを語る会で、職員の共通理解を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内委員会の開催が十分にできなかった。次年度は、年間計画に位置づけるようにする。</li> </ul>
	個別指導計画に基づく指導の充実を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援を必要とする児童への個別指導計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初、対象児童に個別指導計画を作成し、それに基づく指導を行うよう心がけたが、担任一人で、学級集団に対する指導もしなければならず、十分に個別指導計画を活用しきれないところもあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と学級・学校の実態などを勘察しながら、それぞれの実態に即した、より実現可能な個別指導計画を作成する。</li> </ul>
	研修会に参加したり、校内研修を実施したりするなど、教員の専門性を高めるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導室主催の研修会への参加</li> <li>・子どもを語る会での研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この2年間で、指導室主催の研修会への参加は、全員が終了した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、本校での事例と関連させて、専門性を高めること(その児童に対する具体的な理解や支援のあり方など)が必要である。</li> </ul>
	交流及び共同学習、副籍などを通じて特別支援に対する理解を深める教育を推進している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副籍児童との交流活動</li> <li>・各学級における特別支援教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、副籍児童がいなかった。</li> <li>・中学年の総合的な学習の時間に、足の不自由な方を招き、障害に対する理解を深める交流活動ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度のような交流活動の機会を持ち、今後も設定していく。</li> </ul>